

2018年度事業報告

2018年4月1日から2019年3月31日まで

1. 定時会員総会に関する事項

2018年6月19日、日本アクチュアリー会 大会議室にて会員総会を開催し、

- ・2017年度 事業報告の件

を報告し、

- ・第1号議案 2017年度 貸借対照表及び正味財産増減計算書並びに財産目録の承認の件を諮り、原案どおり承認された。

2. 会員の異動状況

本年度の会員の異動は、法人会員については入会2法人、個人会員については入会293名、退会240名があり、2019年3月末の会員数は、下表のとおりとなった。

正 会 員	1,762 名
準 会 員	1,334
研 究 会 員	2,074
小 計	5,170
法 人 会 員	109 法人
合 計	5,279 名・法人

3. 事業報告

[A. 試験関係]

(A1) 資格試験の実施

2018年12月10日、11日及び12日の3日間、東京（TOC 五反田）及び大阪（天満研修センター）において実施し、2019年2月14日に結果発表を行った。

第一次試験の総受験科目数は3,741科目、うち合格科目数は681科目であり、その結果、新たな基礎科目全科目合格者数は133名であった。

第1次試験 (基礎科目)	数学	生保数理	損保数理	年金数理	会計・経済・ 投資理論
受験者数(人)	1,139	719	652	542	689
合格者数(人)	148	92	153	191	97
合格率	13.0%	12.8%	23.5%	35.2%	14.1%

第二次試験の総受験科目数は1,191科目、うち合格科目数は168科目であり、その結果、(基礎科目も含めた)新たな全科目合格者数は83名であった。

第2次試験 (専門科目)	生保1	生保2	損保1	損保2	年金1	年金2
受験者数(人)	360	347	157	131	85	111
合格者数(人)	53	47	17	20	12	19
合格率	14.7%	13.5%	10.8%	15.3%	14.1%	17.1%

(A2) CERA 試験の実施

2018年9月20日にTKP 東京駅日本橋カンファレンスセンターにおいて実施し、2019年1月21日に結果発表を行った。

受験者数は45名、うち合格者数は9名（合格率20%）であった。

(A3) 教科書の改訂等

- ① 2018年10月、「損保」テキストの記載内容について、法令改正や記載誤りにより今後修正を予定している主な事項を、本会ホームページに公表した。
- ② 2019年2月、「年金」テキストを改訂し、確定給付企業年金及び確定拠出年金法の改正等を反映した。

[B. 教育・研修・研究発表関係]

(B1) アクチュアリー講座等の実施

アクチュアリー講座を、2018年5月9日から2018年10月15日の期間で実施した。受講状況等は次のとおり。

	科目		受講者数
基礎講座 (12科目)	・確率論 ・数学（確率論演習） ・生保数理 ・会計学 ・生命表	・統計論 ・数学（統計論演習） ・損保数理 ・経済学 ・モデリング ・年金数理 ・投資理論	146名
特論講座 (7科目)	・危険選択論 ・保険監督法 ・ファイナンス数理	・社会保険論 ・年金実務法規 ・リスクマネジメント論 ・人口論	48名

アクチュアリー追加演習講座を、2018年9月27日から2018年11月30日の期間で実施した。受講状況等は次のとおり。

	科目（受講者数）	
追加演習講座	・生保数理演習（31名） ・年金数理演習（32名）	・損保数理演習（35名） ・モデリング演習（20名）

関西委員会アクチュアリー講座を、2018年8月から2018年10月の期間で実施した。実施科目と受講者数は、生保数理：5名、年金数理：4名であった。

また、2018年7月、アクチュアリー講座部会による講師との打合せを実施し、IAA教育シラバス改訂の状況報告及び講座の運営に関する意見交換を行った。

(B2) 年次大会の開催

2018年11月8日、9日の2日間、経団連会館及びステーションコンファレンス東京において、年次大会を開催した。

本大会の中で、次の特別講演が行われた。

- ・「最近の内外情勢」

山崎 達雄 氏（前財務官）

- ・「「未来の年表」 人口減少日本で起きること」

河合 雅司 氏（ジャーナリスト／産経新聞論説委員）

・「自動運転システム開発の現状と課題」

福島 正夫 氏（日産オートモーティブテクノロジー）

大会 2 日目には、Open Discussion Forum を実施し、海外アクチュアリーと英語によるディスカッション等が行われた他、英国アクチュアリー会 (IFoA) の Rebecca Deegan 氏 (South-East Asia Representative) による IFoA の試験・教育制度等に関するプレゼンテーションが行われた。

また、論文発表：17 編、プレゼンテーション：10 セッション、パネルディスカッション：6 セッションが行われた。

(B3) IT 研究大会の開催

2019 年 1 月 24 日、25 日の 2 日間、三井生命ホール（大手町野村ビル）において、IT 研究大会を開催した。

本大会の中で、次の特別講演が行われた。

・「生命保険会社における働き方改革推進」

佐々木 亮輔 氏（PwC コンサルティング合同会社）

最新 IT 技術調査・研究チームによる「最新 IT 技術の活用について - 海外の先行事例に学ぶ -」の発表及び IT 研究会第 1 グループから第 6 グループによる活動報告が行われた。

(B4) 例会の開催

2018 年度は合計 11 回の例会を開催した。詳細は次のとおり。

第 1 回 (2018. 7. 27) [リスク管理]	資本規制の歴史と最近の論点	重原 正明 君 (国際アクチュアリー会 (IAA) 保険監督委員会副委員長 / 第一 生命経済研究所)
	経済価値ベースの資本規制 - 北米における動向	Jim Dallas 氏 (RGA)
第 2 回 【トリト講義】 (2018. 9. 4) [データサイエンス]	アクチュアリー × データサイエンス：機械学習で自動化すべき保険業務	Xavier Conort 氏 Colin Priest 氏 (共に DataRobot 社)
第 3 回 (2018. 9. 12) [会計基準]	IFRS 第 17 号と再保険	Peter Nowell 氏 (SCOR Global Life SE)
第 4 回 (2018. 10. 30) [医療]	プレジジョン・メディシン (精密医療)	John A. O'Brien 氏 (Gen Re)
第 5 回 (2018. 11. 15) [プロフェッショナリズム]	※プロフェッショナルリズム研修（継続教育）と共同開催 (B9)①参照)	
第 6 回 (2018. 11. 27) [リスク管理]	経済価値ベースのアセットアロケーション・ALM の方向性	David Redfern 氏 (Moody's Analytics)

第7回 【休日シナジウム】 (2018. 12. 22) [データサイエンス]	アクチュアリーとデータサイエンス 【特別講演】会計に関するデータサイエンス ※その他、「産学共同委員会と早稲田大学（基幹理工・清水研究室）との共同取組み」、「データサイエンスの技術」、「データサイエンスにおけるアクチュアリーの役割」について講演・発表があった。	矢口 龍一 氏、市原 直通 氏 (共に EY 新日本有限責任監査法人)
第8回 【トリト講義】 (2019. 1. 23) [その他]	執筆の際に留意すべき知的財産権とクリアする方法	影島 広泰 先生 (牛島総合法律事務所 弁護士)
第9回 (2019. 2. 13) [データサイエンス]	観察データからの因果推定入門	磯崎 隆司 氏 (ソニーコンピュータサイエンス研究所)
第10回 【トリト講義】 (2019. 2. 27) [保険数理]	保険数理と統計的方法とその心	清水 泰隆 先生 (早稲田大学理工学術院 教授)
第11回 (2019. 3. 12) [データサイエンス]	ロボット・AI と法 ※その他、若手会員によるデータサイエンスに関する研究発表があった。	穴戸 常寿 先生 (東京大学大学院 教授)

※第2・8・10回は、分野を限定した講義のため、本会大会議室にて通常より小規模で開催。
 ※第7回は、早稲田大学大学院会計研究科との共催(同大学大隈記念講堂小講堂にて実施)。

(B5) 関西委員会例会の開催

2018年度は合計4回の関西委員会例会を開催した。詳細は次のとおり。

第1回 (2018. 10. 10) [その他]	価値創造の仕組み ～IoT、データを活用し、いかに新たな価値を創造するか～	竹林 一 氏 (オムロン)
第2回 (2018. 12. 13) [その他]	VICAパブリックビューイング ～ERM (ポール・エンブリッツ先生の講演)～	長 信一郎 君 (明治安田生命) 藤澤 陽介 君 (ERM 委員長/ スイス再保険)
第3回 (2019. 1. 22) [その他]	南海トラフの巨大地震と関西の大地震 — 歴史から考える21世紀の地震 —	寒川 旭 氏 (産業技術総合研究所)
第4回 (2019. 3. 26) [生保・年金・リスク管理]	今年度の分科会活動報告	保険計理分科会 年金分科会 ERM分科会

(B6) ムーンライトセミナーの開催

2018年度は、参加者のグループワークの時間を十分に確保するため、例年より前倒して、2018年9月から2019年3月にかけて次の5つのテーマで開催した。

ICS（国際資本基準）を中心とした経済価値ベースのソルベンシー規制の動向と論点	土井 和行 君 朝田 朋憲 君 (共にウイリス・タワーズワトソン)
プレディクティブ・モデリングの実践	岩沢 宏和 君及び ASTIN 関連研究会委員
アクチュアリー業務における Python の活用	濱村 文十 君 松田 康隆 君 (共に PwC あらた有限責任監査法人)
すぐできる Deep Learning	大塚 裕次朗 君 (ミリマン・インク)
Python によるデータ分析・可視化	門脇 大輔 君 (ケーエーコンピューティング)

(B7) 関西セミナーの開催

2019年2月15日に次のテーマで開催した。

<ul style="list-style-type: none">・医療保険の将来変動（医療インフレ）リスク ～インデックス方式の保険料改定スキームについて～・気温デリバティブにおけるインデックス比較・状態空間モデルを用いた死亡率モデルの表現とモデル選択について・長期介護保険商品のリスク分析・確定給付企業年金における現行の積立基準の課題点とその対応・Recovery Theorem の保険商品への応用についての考察	京都大学大学院理学研究科 保険数学ゼミ学生
---	--------------------------

(B8) e-ラーニングの充実

e-ラーニングに次のコンテンツを公開した。

- ・アクチュアリー業務におけるRの活用（初級編／生保編／経済指標編／損保編）
- ・標準生命表2018の作成過程
- ・IAISのALM 이슈ーペーパー（改定版）
- ・死亡リスクの行動的要因 — 行動的・心理的要因を死亡リスクの評価に用いるべきか？
- ・経済シナリオ・ジェネレーター — 実務への応用、課題と解決策—
- ・プレディクティブ分析と保険契約者行動のモデリング
- ・ドイツの社会保障システムが提供する介護（LTC）保険の最新の改革
- ・IAA リスクブック：
 - 第8章（保険グループに関する留意点）
 - 第9章（販売リスク）
 - 第10章（ORSA）
 - 第11章（破たん処理）
 - 第13章（ALM）
 - 第14章（財務諸表）
 - 第15章（モデルのガバナンス）
 - 第16章（重要性・比例性など）

- ・ 2015 ERM Webinar
- ・ 2016 年度 Open Discussion Forum 資料
- ・ 保険数理における予測モデリングの応用 第 I 巻（第 2 章 線形モデルの概要）
- ・ 2017 年度年次大会報告集：
 - － 「日本の将来推計人口」からみる我が国の社会保障の現状と課題
 - － エマージングリスク ～未来の Unknown と戦うリスク管理を目指して～
 - － プレディクティブモデリングの保険データへの応用
 - － DA 制度の導入への道ゆきについて
 - － 退職給付会計に関する債務・費用の計算で使用する計算基礎について
- ・ プロフェッショナルリズム研修（継続教育）2018
- ・ 2018 年度年次大会：
 - － 「ソルベンシーⅡ 導入・その後」
 - － 「経済危機とリスク管理～これからのリスク管理を担う若手のために～」

(B9) プロフェッショナルリズム研修の実施

- ① プロフェッショナルリズム研修（継続教育）を、2018 年 11 月 15 日に次の内容で実施した。
（早稲田大学大学院会計研究科との共催）

- ・ アクチュアリーとプロフェッショナルリズム概論 片寄 郁夫 君（りそな銀行）
- ・ 公認会計士と倫理 －アクチュアリーへの示唆－
金子 裕子 氏（早稲田大学大学院会計研究科 教授）
- ・ ディスカッション 藤澤 陽介 君（スイス再保険）

- ② プロフェッショナルリズム研修（初期教育）を、2019 年 2 月 25 日に次の内容で実施した。
この研修は正会員資格の認定要件である。

- ・ アクチュアリーとプロフェッショナルリズム概論 片寄 郁夫 君（りそな銀行）
- ・ IAA 教育シラバスとプロフェッショナルリズム 村田 富生 君（三井生命）
- ・ アクチュアリーと行動規範について 奈良 伸一 君（明治安田生命）
- ・ 生保のプロフェッショナルリズム 渡部 仁 君（日本生命）
- ・ 損保のプロフェッショナルリズム 金子 洋巳 君
（損保ジャパン日本興亜）
- ・ 年金のプロフェッショナルリズム 堀田 晃裕 君
（有限責任監査法人トーマツ）

- ③ 少額短期保険協会において、金融庁と本会による少額短期保険の保険計理人向けの研修が
2019 年 2 月 26 日に実施された。本会としては、プロフェッショナルリズム研修の一環とし
て、渡部 仁 君（理事・プロフェッショナルリズム教育部会委員）が講師を担当した。

(B10) CERA に関する研修等の実施

2018 年 12 月 7 日、8 日の 2 日間、CERA 試験の受験者を対象に、ERM に関する日本特有の状
況や ERM のケーススタディについて講義やグループ学習を実施した。この研修は CERA 資格の
認定要件であり、受講修了者は 15 名であった。

(B11) VICA2018 パブリックビューイングの開催

2018年8月に合計5回、VICA2018（ICA2018 ベルリン大会の録画ビデオ）の視聴をサポートするため、その会員向けパブリックビューイングを本会大会議室にて開催した。各回において次のとおりテーマを設定し、1回あたり2～3個のセッションについて、ナビゲーターによる簡単な解説やディスカッションも交えて実施した。

- ・ 第1回（2018.8.7）：長寿・死亡率
- ・ 第2回（2018.8.31）：ファイナンス（AFIR） ※台風の影響のため日程を振替えて実施
- ・ 第3回（2018.8.21）：年金
- ・ 第4回（2018.8.24）：ASTIN・データサイエンス
- ・ 第5回（2018.8.28）：ERM

(B12) 研究集会の実施

2019年1月19日、若手会員の学術面の育成等のため、本会会員の論文等を題材とした大学研究者等との討論や学術論文への取り組み方を学ぶ場としての研究集会を、JARIP フォーラムと共催した。

〔C. 調査・研究活動〕

(C1) 標準死亡率諮問委員会の開催

第24回標準死亡率諮問委員会が、2018年10月31日に開催され、「生保標準生命表2018（死亡保険用）」、「第三分野標準生命表2018」及び「生保標準生命表2007（年金開始後用）」について、2019年度に継続適用することが了承された。

(C2) 実務基準の整備

- ① 「IAS19に関する数理実務基準」について、IAAによるISAP3の改定を反映するため、2019年3月、改定草案を公表した。
- ② 「退職給付会計に関する数理実務基準・数理実務ガイダンス」について、IAS19の改定等を反映するため、2019年3月、改定草案を公表した。
- ③ 「生命保険会社の保険計理人の実務基準」解説書について、一部記載の明確化のため、2019年4月より改定されることとなった。
- ④ 「損害保険会社の保険計理人の実務基準」解説書について、一部記載の明確化のため、2019年4月より改定されることとなった。

(C3) 保険商品数理に関する検討

2019年2月26日及び3月8日、生保商品特別検討WGにおいて、保険商品数理に関連するテーマについて金融庁とディスカッションを実施した。

(C4) 国際会計基準・保険監督の国際基準への対応

国際会計基準及び保険監督の国際基準については、IASB（国際会計基準審議会）及びIAIS（保険監督者国際機構）において精力的な検討がなされており、それぞれの機関会員であるIAA（国際アクチュアリー会）は、アクチュアリー専門職団体として、委託研究等の活動を行っている。本会は、IAAの委員会活動に積極的に参画している。

(C5) IAA 教育シラバス改訂への対応

2021 年より改訂後 IAA 教育シラバス（2017IAA 教育シラバス）が発効となることを受け、将来の本会の試験・教育制度について、企画委員会及び試験・教育委員会、関連する委員会等において対応を検討している。今年度は、試験・企画教育委員会により、2017IAA 教育シラバスと現行の試験・教育制度との対比表が作成され、これを踏まえて、今後の検討の方向性をまとめるため、同委員会及び理事等を対象とした第 1 回アンケートが実施された。

また、2018 年 11 月、英国アクチュアリー会（IFoA）の Rebecca Deegan 氏（South-East Asia Representative）の来日を受け、同氏と試験・教育企画委員会等とのミーティングを開催し、IFoAにおける IAA 教育シラバスへの対応状況や e-ラーニング等についてヒアリングを行った。

(C6) データサイエンスに関する取組み

データサイエンスに関する 2017・2018 年度の実践と現時点における課題認識・対応の方向性について、将来の検討・対応の一助となるよう、企画委員会にて予備的報告書として取りまとめた。

データサイエンスの技術のアクチュアリー業務への活用については、その実態調査を目的とした若手による討議セッションを 8/16、8/27、11/13、2/14 に実施した。

(C7) 継続教育制度の履修状況の分析

新継続教育制度が 2015 年度に導入されて 3 年が経過したことも踏まえ、2017 年度継続教育制度の履修状況について詳細な分析を行い、試験・教育企画委員会にて報告・議論するとともに、一部をアクチュアリージャーナル第 104 号に掲載した。

(C8) 委員会等の活動

各委員会・部会・研究会・ワーキンググループ・プロジェクトチームにおいては、年度始に定めた目的・ミッションに基づく調査・研究などの活動を行い、その活動状況等を本会ホームページに掲載するとともに、調査・研究の成果としてまとめたものについては、会員専用のホームページ・会報別冊等を通じて公表した。

[D. 意見表明]

(D1) IAA のカウンシルでの投票（電子投票を含む）

- ① 2018 年 4 月、ISAPs 戦略行動プラン等に関して、賛成として投票を行った。
- ② 2018 年 5 月、IAA ベルリン会議でのカウンシル・ミーティングにおいて、すべての議案について、賛成として投票を行った。
- ③ 2018 年 9 月、IAA 会費の枠組み見直し等に関して、賛成として投票を行った。
- ④ 2018 年 11 月、IAA メキシコ会議でのカウンシル・ミーティングにおいて、すべての議案について、賛成として投票を行った。

(D2) IAA による ISAP4 の公開草案に対し、関係委員会にて検討を行い、2018 年 6 月、意見を提出した。

〔E. 国際関係〕

(E1) IAA 活動

IAA に委員を派遣し、委員会活動に積極的に参画しており、そのうち村田 富生 君は執行委員会に、河野 年洋 君はアクチュアリー実務基準委員会に、中村 吉男 君は保険会計委員会に副委員長として、重原 正明 君は保険監督委員会に副委員長として参画している。なお、吉村 雅明 君は IAA 会長に就任している。

また、トピックスとしては次のとおり。

① OECD 円卓会議

2018 年 4 月に開催された OECD 主催の「アジアにおける保険と退職貯蓄に関する円卓会議」において、OECD 事務局からの依頼を受け、国際関係委員会の事業の一つとして吉田英幸君（国際関係委員長）がアジアにおける保険市場等についてプレゼンテーションを行った。

(E2) ICA2018 ベルリン大会への参加

- ① ICA2026 東京大会に向けた情報収集も兼ねて、ICA2018 ベルリン大会に 5 名の会員を派遣し、うち 1 名が論文発表を行った。
- ② VICA2018（ICA2018 の録画ビデオ）のナショナルパートナーとして参加登録を行い、会員の継続教育及び各委員会等の活動への積極的な活用の呼びかけを行うとともに、VICA のパブリックビューイング（B11参照）を開催した。2019 年以降には VICA2018 と同様のオンラインプラットフォーム“actuvview”が運営されることとなり、当会は引き続き actuvview のパートナーとして登録を行う予定。これにより、継続教育の公式 CPD 単位取得の対象となる海外アクチュアリー会議、研修等の Webinar の視聴が継続的に可能となる。
- ③ ICA2018 に先立ち、ICA2026 招致委員会により ICA 参加者の交流会を実施した。交流会では国際会議に参加する上でのアドバイスや経験談等の紹介があった。また、ICA2026 の参考とするため、ICA 参加者に対してアンケートを実施した。
- ④ 年次大会において、ICA2026 招致委員会により ICA2018 参加者によるパネルディスカッション等が行われ、ICA2026 に向けた会員への ICA の体験談等の情報共有が行われた。

(E3) 第 46 回東アジア・アクチュアリー講座（ASEA）の実施

2018 年 9 月 11 日から 14 日までの 4 日間にわたり、東アジアを中心とする 14 地域から 36 名の参加を得て、アクチュアリーが関わる日本の諸制度の状況等について講義を実施した。

(E4) 国際会議等への派遣等

次のとおり国際会議等に会員を派遣した。

- ① 2018 年 5 月 30 日～6 月 3 日 IAA 会議 (於：ドイツ ベルリン)
角 英幸 君、村田 富生 君、吉村 雅明 君、清水 信広 君、重原 正明 君、中村 吉男 君、山本 貴史 君、山田 龍太郎 君、藤澤 陽介 君、関根 賢二 君、工藤 征夫 君
- ② 2018 年 6 月 4 日～6 月 8 日 ICA2018 (於：ドイツ ベルリン)
角 英幸 君、工藤 征夫 君、清水 信広 君、吉田 宏輔 君（論文発表）、山下 実若 君、山田 龍太郎 君、井川 孝之 君
- ③ 2018 年 7 月 30 日～8 月 1 日 APRIA (於：シンガポール)
藤澤 陽介 君（パネリスト）、垣内 桂太 君（論文発表）

- ④ 2018年8月29日～8月30日 IAA 臨時会議 (於:オランダ ユトレヒト)
村田 富生 君
- ⑤ 2018年9月16日～19日 AAC (於:香港)
工藤 征夫 君、山川 達弘 君 ※プロモーション(ビデオ作成等)にも協力
- ⑥ 2018年10月14日～17日 SOA 年次大会 (於:アメリカ ナッシュビル)
黒岩 和夫 君 ※データサイエンスの調査等を実施
- ⑦ 2018年11月11日～14日 CAS 年次大会 (於:アメリカ ラスベガス)
金子 洋巳 君 ※データサイエンスの調査等を実施
- ⑧ 2018年11月27日～12月2日 IAA 会議 (於:メキシコ)
角 英幸 君、村田 富生 君、庄子 浩 君、吉村 雅明 君、清水 信広 君、河野 年洋 君、
重原 正明 君、中村 吉男 君、山本 貴史 君、山崎 浩 君、山田 龍太郎 君、藤澤 陽介 君、
関根 賢二 君、工藤 征夫 君

(E5) 韓国アクチュアリー会 (IAK) との連携

2018年9月、IAK 事務局長 Chun-Sick Park 氏が来日し、本会の視察を兼ね ASEA 講座に参加された際、本会事務局長・副事務局長にて同氏とのミーティングを開催し、双方の事務局運営等の情報・意見交換を行った。

また、IAK からの協力依頼を受け、2019年3月27日に開催される同会年次大会のプログラム「プロフェッショナルリズムのトレーニング」の講師として、また、プロフェッショナルリズムの強化に関し同会と意見交換を行うため、本会プロフェッショナルリズム教育部会の片寄部会長及び藤澤委員を派遣した。

(E6) 金融庁グローバル金融連携センター (GLOPAC) 研修への協力

2018年12月、金融庁国際室より、GLOPAC での研修プログラムにおける講義への協力(講師派遣)依頼があった。新興国の金融当局者を研究員とした研修プログラムであること、また依頼内容が ASEA 講座にて概ねカバーされていることから、ASEA 部会にて講義を実施した。

[F. 評議員会]

- (F1) 2019年2月26日に第30回評議員会を開催し、2018年度事業報告、2019年度事業計画(案)、個別報告事項(データサイエンス予備的報告書、制度整備の取組み)について審議した。

[G. 産学共同]

- (G1) 京都大学より保険数理及び年金数理の講師派遣の依頼があり、浅野 淳 君(住友生命)、齊藤 弘行 君(住友生命)、鈴木 剛 君(住友生命)、片寄 郁夫 君(りそな銀行)、佐内 利典 君(大同生命)、豊留 健 君(日本生命)、中山 素生 君(日本生命)及び南 嘉博 君(日本生命)を派遣した。
- (G2) 大阪大学より保険数理の講師派遣の依頼があり、佐々田 明彦 君(住友生命)、武村 昌紀 君(大同生命)及び恒川 啓之 君(日本生命)を派遣した。

- (G3) 神戸大学より保険数理の講師派遣の依頼があり、松本 浩司 君（住友生命）を派遣した。
- (G4) 東京大学より社会数理先端科学の講師派遣の依頼があり、中村 亮一 君（ニッセイ基礎研究所）を派遣した。
- (G5) 早稲田大学より生保数理及び年金数理の講師派遣の依頼があり、安達 良喜 君（明治安田生命）、田中 浩一 君（明治安田生命）、浜田 淳一 君（明治安田生命）、荒井 昭 君（明治安田生命）、関口 健太郎 君（エーオンベンフィールドジャパン）、藤澤 陽介 君（スイス再保険）を派遣した。
- (G6) 2018 年 9 月、早稲田大学大学院会計研究科において、アクチュアリーに興味のある学部生・大学院生を対象としたキャリア支援セミナーが開催され、産学共同事業の一環として、工藤 征夫君（事務局長）を派遣した。
- (G7) 2018 年 7 月、統計数理研究所リスク解析戦略研究センターからの打診を受け、同センターが運営するリスク研究ネットワークに加入した。また、2018 年 12 月、同センター主催の金融シンポジウムにおいて、本会から 2 名が論文発表を行った。
- (G8) 2018 年 10 月、京都大学大学院理学研究科数学教室の連続講義について、派遣講師がその運営に参画する形で協賛した。
- (G9) 2018 年 11 月、東京大学とレセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）のデータを利用した共同研究を行うため、共同研究契約を締結した。

[H. 表彰関係]

(H1) 2017 年度資格試験理事長賞及び成績優秀者

① 理事長賞

後小路 弘太 君（第一生命）に理事長賞を授与した。

② 科目別成績優秀者

数学 1 名、生保数理 1 名、損保数理 1 名、会計・経済・投資理論 1 名、生保 2 1 名の成績優秀者を表彰した。

(H2) 優秀論文の表彰

① 2018 年 11 月 8 日、年次大会において、次の優秀論文を表彰した。

「参照母集団データを用いた保険契約ポートフォリオの将来死亡率推計
～Two population model にもとづくアプローチ～」

西尾 和記 君（住友生命）

「医学的な観点を踏まえた死因別死亡率の将来推計」

佐内 利典 君（大同生命）

- ② 2019年1月24日、IT研究大会において、次のIT関係優秀論文を表彰した。
「オープンAPIの有用性と保険業界が起こすイノベーション」
（IT研究会第4グループ）
「開発部門と運用部門の新たな関係作り・役割見直しによりサービスリリースサイクルの“超短縮”を実現する」
（IT研究会第2グループ）

〔I. 広報・出版活動〕

(I1) 広報活動

- ① 2019年1月26日、学生を主な対象としたアクチュアリーセミナーを、東京及び大阪において実施した。参加者は、東京54名、大阪20名であった。
② 2018年11月15日、高等学校における授業「総合的な学習の時間」のフィールドワークとして、アクチュアリーに関心のある高校生が1名、本会事務局を訪問し、事務局長及び副事務局長にて対応した。

(I2) 情報提供機能の充実

次のとおり本会ホームページの改定を行った。

- ① トップページのリニューアルを行い、スライド式バナーの導入、当該バナーを活用した本会資格試験情報・CERA関連情報へのリンケージ及びICA2026の周知等の対応を行った。
② CERA関連情報の充実を行った。
③ IAAニュースレターのページを作成し、IAA会議の情報を入手しやすくした。
④ 「合格者の声」のリニューアル（紹介メンバーの入替え）を行った。

(I3) 関連協会の事業への協力活動

公益財団法人日本数学検定協会が主催する公益目的事業「数学甲子園2018」（第11回全国数学選手権大会）の本選に協賛した。

(I4) 会報等の刊行

①会報

第71号	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典的アクチュアリー数学史の話題より ・ 医学的な観点を踏まえた死因別死亡率の将来推計 ・ 破産理論と生命保険への応用に関する一考察 ・ 金利変動に伴う経済価値ベースの保険負債の価値の変動 (Dynamic generalized Nelson-Siegel Modelの活用) ・ ビジネスラインの多様化に対する数理的考察 ・ 退職給付会計における死亡率に関する一考察 ・ 外貨建保険の収益管理について ・ 参照母集団データを用いた保険契約ポートフォリオの将来死亡率推計 ～Two population modelにもとづくアプローチ～ ・ 終身医療保険に内在する長寿リスクに関する考察
------	--

②会報別冊

第 284 号	<p><第 58 回 IT 研究大会報告> (IT 委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別講演「生命保険会社における働き方改革推進」 (PwC コンサルティング合同会社 佐々木 亮輔) ・ 保険業界における RPA (ロボティック・プロセス・オートメーション) の活用 ・ 保険業界におけるクラウド活用の可能性について ・ 保険業界におけるビッグデータ活用に関する考察 ・ 保険業界における「働き方改革」の実現に向けた IT 活用 ・ システム開発における「失敗学」の活用 ・ ブロックチェーン技術の保険事務・保険商品への適用可能性
---------	--

③アクチュアリージャーナル

第 103 号	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2017 年度第 7 回例会報告 ・ ASTIN Bulletin Abstracts (ASTIN 関連研究会翻訳) ・ 2016 年エジンバラ AFIR-ERM 国際会議概要 (AFIR 関連研究会報告) ・ 2017 年度関西委員会分科会報告 ・ 2017 年度ムーンライトセミナー報告 ・ 2017 年度新 CERA 資格者 ・ 2017 年度継続教育制度履修目標達成者 ・ 2017 年度資格試験合格者決定 ・ 図書紹介 ・ アクチュアリーリレートーク (連載第 4 回)
第 104 号	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楠岡先生の日本学士院賞受賞について ・ OECD、金融庁、アジア開発銀行研究所共催アジアの保険・退職貯蓄ラウンドテーブル (日本) (国際関係委員会報告) ・ 『リスク研究ネットワーク』への参加 (ERM 委員会報告) ・ 2017 年度第 8 回例会報告 ・ 2017 年度第 9 回例会報告 ・ 2017 年度第 10 回例会報告 ・ 2016/2017 Emerging Risks Survey の紹介 (ERM 委員会報告) ・ 2017 年度継続教育 CPD 単位履修状況 ・ 委員会活動紹介 (大会委員会) ・ アクチュアリーリレートーク (連載第 5 回)
第 105 号 <ICA2018 ベルリン大会特集号>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICA2018 ベルリン大会特集企画 (ICA2026 招致委員会・事務局報告) ① ICA2018 ベルリン大会について ② VICA2018 パブリックビューイングの開催について ③ ICA2026 東京大会に向けて (2018 年度年次大会より) ・ 2018 年度第 1 回例会報告 ・ 2018 年度第 2 回例会報告 ・ 2018 年度第 3 回例会報告 ・ IRFRC-APRIA 2018 Joint Conference 参加報告 (ERM 委員会報告) ・ 第 46 回 ASEA 開催について (ASEA 部会・事務局報告) ・ コラム (アクチュアリー会事務局へ高校生が来局) ・ 数学甲子園 2018 について (広報委員会報告)

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 追悼記事 庄司聡彦アクチュアリージャーナル編集部会長を偲んで ・ 図書紹介 ・ 委員会活動紹介（保険会計部会） ・ アクチュアリーリレートーク（連載第6回）
<p>第106号 ＜データサイエンス特集号＞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2018年度第7回例会報告（休日シンポジウム） 「アクチュアリーとデータサイエンス」 <ul style="list-style-type: none"> - 会計に関するデータサイエンス - データサイエンスの技術 - データサイエンスにおけるアクチュアリーの役割 ・ Big Data and the Role of the Actuary の翻訳（外国文献研究会） ・ 2018年度第4回例会報告 ・ 2018年度第6回例会報告 ・ 第7回アクチュアリー特別講座参加者座談会～ 25年の時を経て、今、思うこと～ ・ 2018年度 アクチュアリーセミナー報告（広報委員会アクチュアリーセミナー部会・関西委員会） ・ 委員会活動紹介（保険監督部会） ・ アクチュアリーリレートーク（連載第7回）
<p>特別号 ＜リスクと保険第15号＞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演「サイバー耐性の改善に向けて～金融機関と金融監督当局の取組み～」 ・ 講演「産学共同によるERM文献翻訳の取組み」 ・ 寄稿「ISAP6 成立までの議論の経緯」 ・ 寄稿「AGLM：アクチュアリー実務のためのデータサイエンスの技術を用いたGLMの拡張」 ・ 論文「Economic IRR とその活用」

④2018年度資格試験問題集

⑤2017年度年次大会報告集
2018年度年次大会報告集